

高等学校 地理歴史科（歴史総合） 学習指導案

指導者 鶴田 輝樹

日 時 令和7年12月16日（火） 第6限 14:25～15:15

場 所 I-1HR 教室

学年・組 高等学校1年1組 42人

単 元 現代と私たち 現代的な諸課題の形成と展望

- 目 標
1. 万国博覧会の歴史的背景及び、特に20世紀に開催された万博が開催当時の社会状況と密接に関連していることを理解する。（知識・技能）
 2. グローバル化にともない生活や社会が変化したことを示す資料を取り上げて、情報を読みとったりまとめたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）
 3. 現代社会の諸課題に対し、みずから歴史的な見方や考え方を活用して分析し、課題を明らかにするとともに、将来を展望することができる。（学びに向かう力・人間性等）

指導計画（全2時間）

第一時 ICTを活用しながら、万国博覧会の歴史的背景について概観する。 1時間

第二時 20世紀に開催された万博が、開催当時の社会状況と密接に関連していることを、協働的な学びを通してまとめるとともに、大阪・関西万博から現代社会の諸課題について考える。 1時間（本時2/3）

第三時 自ら考えた課題を、新聞(社説)の形式でまとめ、クラス全体で共有する。 1時間

授業について

2022年度から高等学校で必修化された新科目「歴史総合」は、現行の学習指導要領において、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解すること」、「歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想すること」、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」ことが目標として示されている。

原田(2019)は、私見として、「歴史総合」の授業を創る上で、持続可能な社会の視点が重要であり、そのような社会の実現には、ユニバーサリティとパートナーシップが不可欠であるとしている。そこで本授業では、各国が国を超えて、相互に共同・提携し取り組んできた「万国博覧会」を題材として、現代的な諸課題の形成過程を明らかにしたうえで、その展望について考察する。

導入では、前時の復習としてICTを活用しながら、万博の歴史的背景やその意義等について確認する。展開①では、20世紀を中心に関催された万博のテーマ(その時代において新規性のある科学技術の発展や、国際的に共有された課題などとの関わりが深く、その時期における国際的関心の所在を反映している)に着目し、当時の社会との関わりについて、協働的にまとめる。展開②では、2025年に開催された大阪・関西万博に関する新聞記事(社説)を資料として、現代社会の諸課題について考察する。指導上の留意点として、社説をただ読ませるのではなく、その構造・構成についても説明する。終結では、30年後の万博テーマを考えることで、現代的な諸課題の展望について構想する。また、ICT(新聞制作アプリ「ことまど」)を活用して生徒同士の意見を共有させることで、生徒が自発的に現代的な諸課題への認識を深めることを期待する。

現代的な諸課題の解決を導き出すことは限りなく難しいことではあるが、解決のために歴史を学び、探究し、生徒自身が問い合わせができる生徒の育成をめざしている。なお、本授業は、第Ⅲ部「グローバル化と私たち」の導入授業としてだけでなく、歴史総合全体のまとめとしての位置付けも想定している。

題 目 現代的な諸課題を展望する歴史総合の授業実践－「万国博覧会」を事例として－

本時の目標

- 万博の歴史的背景及び歴史的事象との関わりについて理解する。(知識・技能)
- 社説の構造・構成原理を理解した上で、自分の考えについてまとめる。(思考・判断・表現)
- 万博について分析する際、主体的・協働的に取り組むとともに、授業課題について積極的に自分の考えを表現することができる。(学びに向かう力・人間性等)

本時の評価規準（観点／方法）

- 社説の構造及びその構成についてまとめることができる。(技能／ワークシート)
- 社説の構造・構成原理を用いて、実際の社説の記事内容を整理することができる。(思考・判断・表現／ワークシート)
- 今後予想される社会的諸課題について自分なりの考えを表現することができる。(主体的に学習に取り組む態度／ワークシート等)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】(10分) ○万国博覧会の歴史的背景について理解する。(前時の復習)	・スライド資料から、これまで学習した内容について確認する。	・日本と万博の出会いや現代とのつながりを示し、生徒の興味・関心を引き出す。
【展開①】(15分) ○20世紀に開催された万博とその時代背景との関連について考察する。	・万博の「テーマ」に着目し、それが当時の社会のどのような課題を反映したものかについて仮説を立てる。 ・万博と開催当時の社会状況との関連性についてペアワークで理解を深める。	・ペアワークの準備段階として、個人単位で考察する時間を設ける。 ・教科書本文ページや資料集を用いて仮説を検証させ、内容をワークシートにまとめる。 ・万博開催地の地図を活用して、地理的な特徴についても考えさせる。
【展開②】(20分) ○2025年の大阪・関西万博から現代社会の諸課題について考察する。	30年後の万博のテーマについて考えてみよう。 ・紙媒体で配付した大阪・関西万博に関する各新聞社の社説を読み比べる。 ・大阪・関西万博を通して現代社会の諸課題および今後の展望について考える。	・中国新聞の社説を例にして、社説の構造について解説する。 ・社説の構造を示したワークシートを活用して、生徒自身の考えをまとめさせる。
【終結】(5分) ○これまでの学習を踏まえ、30年後の地球社会について創造する。	・これまで学んだことを踏まえた上で、30年後に開催される万博のテーマについて考える。	・新聞制作アプリ「ことまど」を活用して、万博に関する社説を書かせる。 ・完成したものは「ことまど」を通じてクラスの中で共有する。
【参考文献】		
・原田智仁,『高校社会「歴史総合」の授業を創る』,明治図書,2019. ・稻葉茂勝/渡邊優,『万国博覧会－知られざる歴史とSDGsとのつながり－』,ミネルヴァ書房,2023年.		

万博テーマ一覧

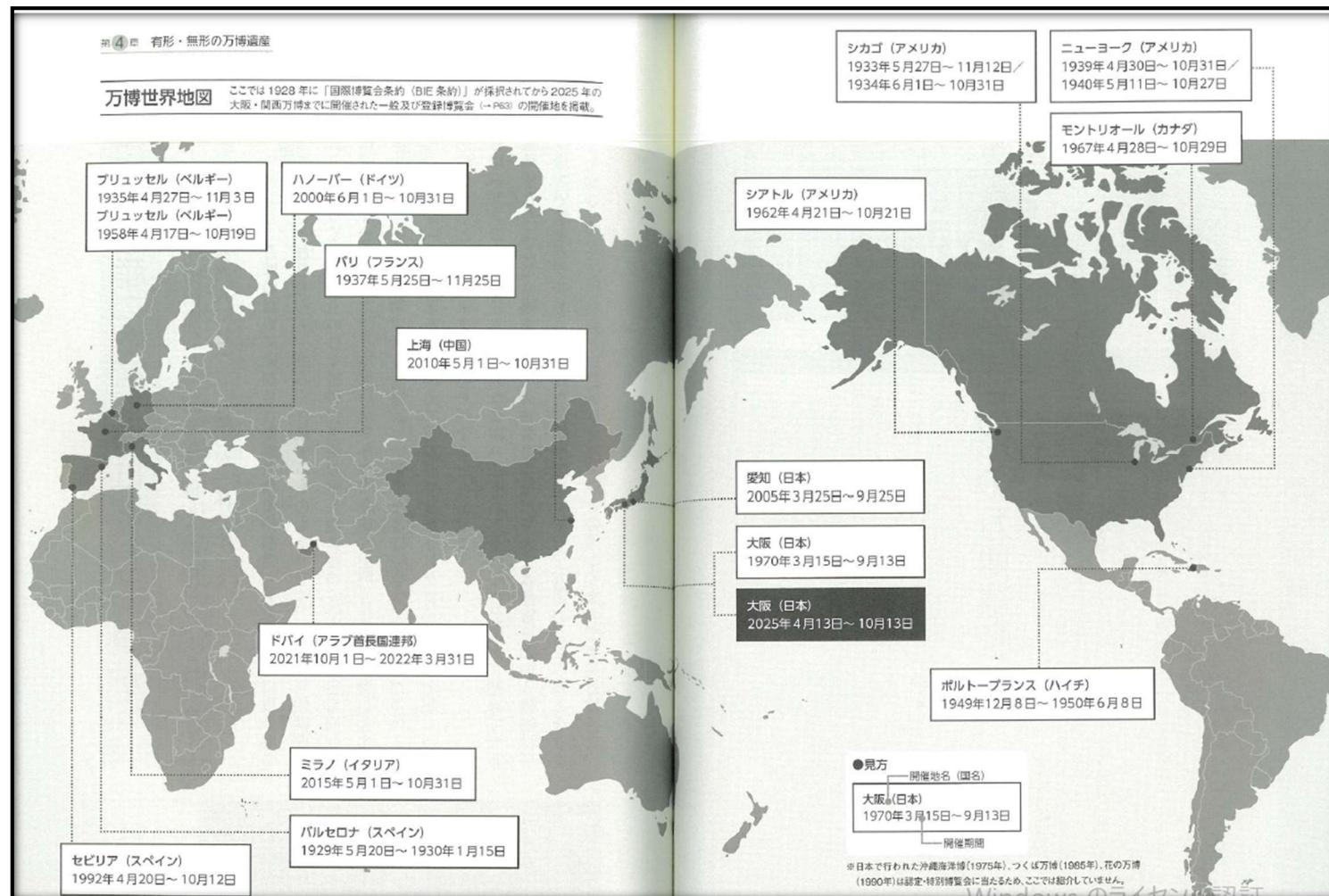
組 番 名前

○万博のテーマの背景には何があったか、開催時期の社会との関連について考えてみよう！

開催都市(国)	開催年	テーマ	特徴	社会との関連
シカゴ(アメリカ)	1933	進歩の世紀	電気調理器具など/新たな交通機関/満州館出品	
ブリュッセル(ベルギー)	1935	民族を通じての平和	ベルギー鉄道開通 100 周年を記念	
パリ(フランス)	1937	現代生活の中の芸術と技術	ゲルニカの展示/独・その敵対的展示	
ニューヨーク(アメリカ)	1939	明日の世界の建設と平和	飛行機による旅行・防衛/独不参加	
ポルトープランス(ハイチ)	1949	平和の祭典	発展途上国での開催	
ブリュッセル(ベルギー)	1958	科学文明とヒューマニズム	スパートニクの展示/国際機関招聘/植民地展示	
シアトル(アメリカ)	1962	宇宙時代の人類	「植民地展示」一掃/NASA の展示	
モントリオール(カナダ)	1967	人間とその世界	ソ連、開催地の権利返上/「一つのカナダ」強調	
大阪(日本)	1970	人類の進歩と調和	月の石展示	
セビリア(スペイン)	1992	発見の時代	統一ドイツの参加/バルト三国参加	
ハノーファー(ドイツ)	2000	人間・自然・技術	環境保護重視	
愛知(日本)	2005	自然の叡智	環境配慮、地球大交流、市民参加	
上海(中国)	2010	より良い都市、より良い生活	未来都市や環境問題への取り組み	
ミラノ(イタリア)	2015	地球を養う。命のためのエネルギー	飢餓や食料問題の提起	
ドバイ(アラブ首長国連邦)	2020	心を繋いで、未来を創る	最先端技術/サステナビリティ	
大阪(日本)	2025	いのち輝く未来社会のデザイン	先端技術の実証と SDGs の達成に向けた共創	
リヤド(サウジアラビア)	2030	変化の時代 共に先見性のある明日へ		

※1933～2025 年までの一般・登録博覧会を抜粋

万博世界地図

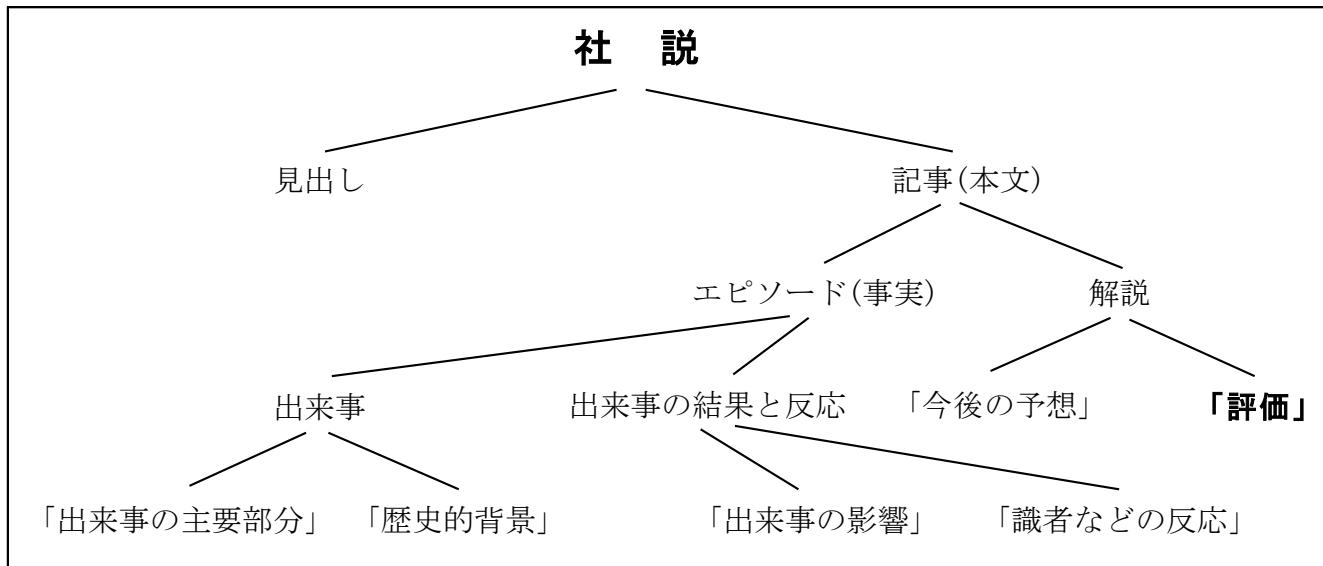


※1929～2025年までの一般・登録博覧会

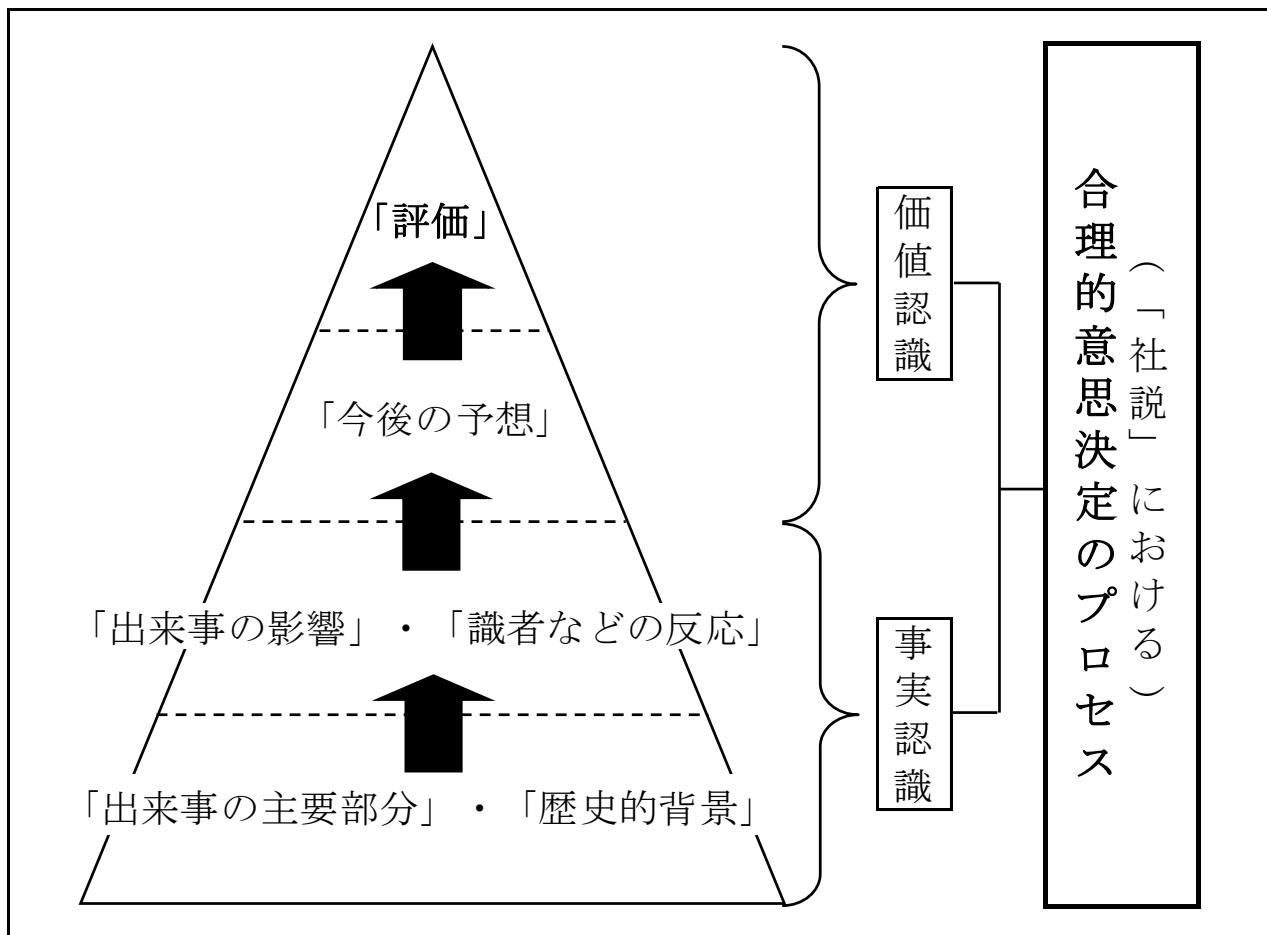
【上の地図からあなたが考えたことをまとめよう！】

「社説」の構造・構成について知ろう！

- 「社説」とはどのような構造になっているだろう？



- 「社説」はどのように構成されているだろう？



<2025.10.14>

大阪・関西万博が184日間の会期を終え、閉幕した。158カ国・地域が参加し、延べ2500万人超が来場した。日本国際博覧会協会（万博協会）によると、運営収支は230億～280億円の黒字となる見通し。来場者がそれぞれの楽しみ方を見つけてSNSなどで発信し、共有した人が更新してまた発信する。そんな広がりが独特の一体感を生み出し、来場者が主役となった万博だった。閉幕前の低調に終わるとの予想を覆して活況を呈したことは、成功といってよいだろう。

世界とふれあう場所に平成30年11月に説明が決まり、万博は、建設資材の高騰などで会場建設費が2度上振れし、海外パリオの準備が大転に遅れ、開幕前は期待よりも赤字や安全性への懸念など、ネ

万博の閉幕

未来社会に一体感生かせ

来場者の発信が成功に導いた

し、さまざまなお楽しみ方が広がった。

万博の評価が上がるにつれて、当初は不評だった公式キャラクター「ミャクミャク」も大

人気となった。グッズが飛ぶよ

った。

ユースターを務めたメディアアーティストの落合陽一さんは、長

い

行列を

と

楽しむ「万

博民」と会場スタッフが「一致団結した」と会場の空気感を評

いた。

9月末から始まった未使用チケットの当日券引き換えには早

く

に

購入

され

た。

うに売れ、会場内の像周辺は人

の

気の

撮影スポット

になつた。序

の

実験場

の目玉だった「空飛

現実を伝えた」

は「一般来場者が10万人を下回

る」と

記録も残つた。万博を監督す

ガティブなイメージの方が大きかった。だが、そんな風向きは来場者が実体験を「素晴らしい」「よかったです」と発信し始めたことで変わった。効率的な回り方や飲食スポットをまとめて無償の地図などが拡散され、来場者がそれぞれの楽しみ方を見つけてSNSなどで発信し、共有した人が更新してまた発信する。そんな広がりが独特の一体感を生み出し、来場者が主役となった万博だった。閉幕の前回は、SNSなどで発信して活況を呈したことは、成功といつてよいだろう。

「負の遺産」残さぬよう東京など関西以外の地域への波及は限定的だった。安全性を確保するための「原則予約」システムは複雑で来場者を苦戦させたうえ、終盤の駆け込み需要

は1周2千のうち200人が残った。周辺敷地は公園・緑地による見通し。パビリオンや展示

波は海外の建設では、海外パビリオンの建設では、み、令和9年から商用運航が始まる見通し。脈打つIPで登記された民間会社名義で出展した。日本の外務省が3月、民間出展であることを明示するよう申し入れたのは、日台友好を残さないよう、国や大阪府を残さないよう、国や大阪府市、協会はしっかりと対応してもらいたい。

シンボルの「大屋根リング」は1周2千のうち200人が残

し、周辺敷地は公園・緑地による見通し。パビリオンや展示

波は海外の建設では、海外パビリオンの建設では、み、令和9年から商用運航

が始まる見通し。脈打つIPで登記された民間会社名義で出

展した。日本の外務省が3月、民間出展であることを明示するよう申し入れたのは、日台友好を残さないよう、国や大阪府

市、協会はしっかりと対応してもらいたい。

したが、離着陸場の整備が進

る博覧会国際事務局（BIE）への加盟を認められていない台

湾はパビリオンを出せず、日本

が始まる見通し。脈打つIPで登記された民間会社名義で出

展した。日本の外務省が3月、民間出展であることを明示するよう申し入れたのは、日台友好を残さないよう、国や大阪府

市、協会はしっかりと対応してもらいたい。

したが、離着陸場の整備が進

る博覧会国際事務局（BIE）への加盟を認められていない台

湾はパビリオンを出せず、日本

が始まる見通し。脈打つIPで登記された民間会社名義で出

展した。日本の外務省が3月、民間出展であることを明示するよう申し入れたのは、日台友好を残さないよう、国や大阪府

市、協会はしっかりと対応してもらいたい。

□社説を読んだ感想

○万博に関する「社説」を書いてみよう！

見出し		
記事	出来事	出来事の主要部分
		歴史的背景
	出来事の影響	
	出来事の結果と反応	識者などの反応
解説	今後の予想	
	評価	

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業の趣旨は、高等学校「歴史総合」において、学習指導要領に示された「目標」「内容の取扱い」をできる限り具現化し、学習指導過程のモデルを示すことである。

現行の学習指導要領において、「歴史総合」の目標には以下の記述がみられる。実践者は特に下線の部分を意識しながら本授業モデルの作成に取り組んだ。

(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

※下線は実践者がつけたもの

2022年度から高等学校で必修化された新科目「歴史総合」は、現行の学習指導要領において、「現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する」こと、「歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する」こと、「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」ことが目標として示されている。

実践者は、世界と日本を相互的な視野から捉えるために、各国が国を超えて、共同・提携し取り組んできた「万国博覧会」を題材とした。2025年に大阪・関西万博が開催され、生徒が興味・関心を持って学習に取り組めることもねらいとした。

導入では、前時の復習としてICTを活用しながら、万博の歴史的背景やその意義等について確認した。展開①では、20世紀を中心開催された万博のテーマ(その時代において新規性のある科学技術の発展や、国際的に共有された課題などとの関わりが深く、その時期における国際的関心の所在を反映している)に着目し、当時の社会との関わりについて、協働的にまとめた。展開②では、2025年に開催された大阪・関西万博に関する新聞記事(社説)を資料として、現代社会の諸課題について考察した。指導上の留意点として、社説をただ読ませるのではなく、その構造・構成についても説明した。終結では、30年後の万博テーマを考えることで、現代的な諸課題の展望について構想した。また、ICT(新聞制作アプリ「ことまど」)を活用して生徒同士の意見を共有させることで、生徒が自発的に現代的諸課題への認識を深めることを期待した。

2. 研究協議

- ・近代における万博に関する説明がメインとなり、生徒の思考する時間が短かったのでは?
→想定よりも説明する内容が多くなってしまった。より学習内容を精査し、生徒が思考・判断する時間をとるべきであった。
- ・万博をテーマにすることで、考察する現代的な諸課題が制限されるのでは?
→特に2000年代の万博に関しては、SDGsの推進がメインとなり、そこから当時の歴史的背景や社会問題を見いだすことは難しかった。
- ・教科書や資料集から、万博に関する考察を深めることは難しいのでは?
→特に歴史総合の教科書・資料集だけだと、情報量が限られてしまった。ICTや新聞データベースなどを上手く活用する必要がある。